



JAPIC NEWS

<http://www.japic.or.jp>

62	Motherisk FIP 2002	
JAPIC		
	2003 26 DB2002 10	10
		11
JAPIC NEWS		11
No.1 48		12
		14
		15

北米一の妊婦への情報提供機関「Motherisk」を訪問して

平成 14 年度の事業として総合安全性情報データベース構築に着手する計画があり、その一環として妊婦への薬剤投与に関する情報も取り上げる予定である。基本的な情報としては、JAPIC が既に持っている添付文書情報と文献情報があるが、臨床の現場で利用してもらうためには、更にこれらの基本的情報に臨床的な解釈が加えられたものがあるとより有用な情報となる。そのために、現在妊婦への情報提供の第一人者であるカナダ・トロントの Motherisk を訪問（7 月 25 日）し、当所で使用されている情報の JAPIC での利用の可能性について調査を行った。Motherisk への訪問は、7 月 27 日～31 日オタワで開催された ICWES12（第 12 回国際女性技術者・科学者会議）への参加の際、中村理事、矢野課長と共に行ったものである。

1 . Motherisk の概要

Motherisk は、トロント小児病院・臨床薬理部の臨床プログラムの一つとして 1985 年に設立された。他の臨床プログラムとしては、中毒センター、臨床薬理・毒物治療外来、病院内の薬相談があり、今回面談した伊藤真也先生が部長である。

病院はトロント大学の一角にあり、伊藤先生はトロント大学小児科準教授でもあり大学付属の病院のようであるが、Motherisk の運営には様々な資金援助があるらしく、また資金の流用はフレキシブルであるという。5 本のカウンセリング用電話の外、妊娠とつわり、薬物乱用、HIV の 3 本の専用線があり、つわりラインはケベックのある製薬メーカーが、薬物乱用ラインはカナダの酒造メーカー協会が資金援助している。

Motherisk でのカウンセリングは勿論のこと、カナダの医療費は無料である。州税・国税合わせて 15% の国ならではであろう。2500 万人～3000 万人のカナダ人口の内 1000 万人近くがオンタリオ州で、その半分はトロントが占める中、このトロント小児病院は 300 床（重症患者のみ）を持つカナダ最大の小児病院であるという（カナダには他に二つ、オタワと西側に小児病院がある）。病院の建物は、まさに The Hospital for Sick Children（トレードマークは HSC と子供の顔がベッドの上にある）という雰囲気、玄関を入ると吹き抜けの空間を動物が泳いでおり、病室に向けた窓にはプーさんやキティちゃんなどかわいいキャラクターが描かれ、子供たちを励ましていた。患者の家族のためのハウスとしては、マクドナルドが支援する「マクドナルドハウス」があるという。

Motherisk のカウンセリングは 9：00～17：00、8 名のカウンセラーが対応している。時間外の問い合わせには、三センター（Motherisk、中毒センター、院内薬相談）の医師



伊藤真也先生と

が応答している。設立当初は 400 件 / 年であったが、現在 70,000 件 / 年 (260 ~ 270 件 / 日、40 件 / hr) の問い合わせがあるという。大概是家庭医からの紹介で患者自身が電話してくるが、医師からのものもある。カウンセリングは一人平均 10 分ぐらいであるが、時間をかけて調べたり、難しい場合は医師が調べて答えている。カウンセリングした患者の 10% が外来を予約し、来院し医師の診察 (30 ~ 60 分) を受けている。カウンセリングには外国での医師免許

取得者、薬理学 (医学部以外の)・薬剤疫学等を学んだ者が当たり、医師 10 人がバックアップしている。また、トロント大学医学部臨床薬理の大学院生等の学生アルバイトもいるというが、教育・研修プログラムが確立されており、教育のセッションがあるので常に、カウンセラーはレベルアップすることができ、最新情報を利用している。

訓練は on-going なものでなければならず、カウンセリングにおいては、薬のこのみでなくその患者に基礎疾患があれば、例えば、糖尿病であれば薬よりも糖尿病のリスクについて理解させるべきであり、医師、看護婦、薬剤師、ソーシャルワーカー等 multidisciplinary にやるべきであると先生は述べておられた。カウンセリングでは、患者の誤解を解くことが大事であり、ベースラインリスクは必ず説明している。そのことは Motherisk Intake Form に記載するようになっているので、忘れることはまずなさそうである。このシートは OCR 入力され、データベース化されている。また、日本の感染症サーベイランスのアイデアを入れた「患者情報データベース」(Motherisk Cohort) の作成に国からお金がでることになったという。カウンセリングした患者さんはフォローアップしデータを収集して、研究活動、Motherisk の活動に生かされている。

臨床薬理部においては、様々な臨床研究活動が行われその成果は各種雑誌に発表されたり、Motherisk でカウンセリングに使用する Statement に追加される。Motherisk の HP にもテーマは掲載されており、患者さんの研究への協力を呼びかけている。

家庭医の医学雑誌 Canadian Family Physician には Motherisk のコーナー「MOTHERISK UPDATE」があり、妊娠と薬に対する一般の医師、患者の考え方も変わってきたという。また、12 冊に及ぶ書籍も発行されている。その他、WAL MART PHARMACY の寄付により小さなカード「Pregnancy Wallet Card」等も作成されている。

一方、中毒センターは 24 時間対応なので、大変である。40 人ぐらいの人がいるが、電話で応答するスタッフは研修を受けたフルタイムの看護婦 25 人であるという。院内薬相談等の Motherisk 以外の活動についても、JAPIC の今後の活動を考える時、参考になる

活動であろうと思われたが、事前の知識が欠けていたため話を聞く機会を持たず残念であった。

2 . 妊娠に対する社会環境の相違

今回の訪問で一番ショックだったというか、目から鱗だったのは、日本とカナダの「中絶に対する考え方の相違」であった。「中絶に対し日本は非常に寛容であり、これは赤ちゃん、子供に対する社会の重さの違いが表わされており、日本とは天秤の重さ、バランスが違う。カナダでは生まれ来る子の生命を守ることを真剣に考える」というお話は日本の中には実感し得ないことであった。

“日本は Prochoice（妊娠中絶合法化支持の：研究社リーダーズ英和辞典）の立場（女性の権利を大事にする。女性の中絶に対しリベラルである考え方）カナダでは Prolife（妊娠中絶合法化に反対する：研究社リーダーズ英和辞典）（胎児の生命に重きを置く。Motherisk の基本はこれであり、社会の動きがこうである）の立場であり、情報を求める社会全体の土壌が違う”という先生のお話は、目から鱗であった。

丁度この時期、ローマ法王がトロントを訪れ、世界のカソリックの若者達が集う World Youth Day が開催されていた。Motherisk を訪問した翌日は、街中いたるところに若者達が溢れ交通規制が敷かれて、病院も外来を閉鎖する状況であった。大変敬虔なカソリックの国柄が伺えた。

最近発表された厚生労働省の平成 13 年度の「母体保護統計報告」によると、13 年の人工妊娠中絶の実施総数は 34 万 1588 件という日本の状況と、中絶を行う産婦人科医が銃で撃たれる事件が起こる国においては、求められる情報の重さが違うことを実感した。同じ情報でも「額縁」の色・フレーミングが大事であり、社会の雰囲気でのこのフレーミングの仕方が違い、これはアートの世界であるという先生のお話は、大変感動的であった。しかし、日本においても虎ノ門病院、新潟大学の様に、このような観点から熱心に活動している所もあり、カナダ程ではなくともこれらの情報が求められていることも事実である。

JAPIC では、Motherisk のような活動はできないまでも、そのような意志をもった医療機関に対し、少しでも判断の役に立つ情報を提供することは意味のあることである、と思いついて自身の活動を勇気づける必要があった。

3 . Motherisk の情報

JAPIC の総合安全性情報データベースで提供される情報について、伊藤先生は「添付文書では役に立たず、文献を含めても情報のみを与えたのでは、解釈ができない。これに答えるものとしては、現在公開されているものでは、Micromedex の Reprorisk がスタンダードでしょう」と述べておられた。確かに患者さんへのカウンセリングは、Motherisk において実施されているように、常に最新情報から様々な情報をチェックし、臨床薬理研究室での研究成果などの新しい情報を追加し、解釈を加えて独自に作成された資料に基づいて、医師のバックアップを受けてカウンセリングが行える状況が望まれる。更に、定期的

なスタッフ・ミーティングにおいて、カウンセラーは常にトレーニングされその時点での最新情報が伝達される状況が理想である。当所ではその基礎となる資料が、Motherisk Statement といわれるものである。

JAPIC におけるその利用の可能性について伺ったところ、カナダは医療費が無料であり、病院側は Statement を売ってはいけない・Public からお金を取ってはいけないという考え方であるという。さらに、先に述べたように Motherisk においては、常に情報は新しくなっておりスタッフはそれを承知して使用している（事実、カウンセリング中のスタッフの Statement には様々な書き込みがあった）。それらの情報が常に Statement 上にメンテナンスされていけばよいが、現状はそこまで至っていないので、メンテナンスできるシステムを考えなければいけない。それができれば提供することも考えられるので、メンテナンスできる方法を考えてみましょうという心強いお返事をいただいた。

最後に、訓練はいつでもしてあげます。ただし、臨床疫学の素養と英語力が必要ですとのこと。



4. まとめ

Motherisk のあるトロント小児病院で

以上、Motherisk を訪問して明らかになったことについて述べたが、今後 JAPIC が「妊娠と薬」について情報提供するに際して、医療現場では事実を示した単なる情報だけではなく、その情報のもつ意味の解釈までを示す必要があることを理解した上で、目標を定める必要があると感じた。

日本とカナダのこれらの情報を求める社会環境の相違はあるが、今、熱心に取り組んでいる医療機関の方々はあくまでも正しい情報を伝えて、不必要な中絶を無くしたいとの思いから活動されている。今後日本においても社会からのこのような要請は必ず出てくるはずであり、JAPIC もそれに答えられる情報を整備することは必要であると考えます。

Micromedex 社の Reprorisk は公開されたものとしてはスタンダードなものであり、世界 150 カ国で利用され、オーストラリア、スウェーデン、イタリアでは、国単位、州単位でフリーに使用されているという。JAPIC でもその利用について検討しているが、Motherisk Statement が公開されるまでは、この利用が一番の近道のように思っている。

Reprorisk、今回訪ねた Motherisk の Statement の利用も含め、「妊娠と薬」に関する情報の整備を実施したいと考えている次第である。

Motherisk の URL は、<http://www.motherisk.org>である。

(添付文書部門 太田福子)

第 62 回国際薬剤師・薬学会議（FIP 2002）参加記

1. はじめに

2002 年 8 月 31 日～9 月 5 日、第 62 回 FIP 大会がフランスの Nice で開催されました。1992 年の Lyon 大会以来、度々参加してきましたが、図らずも 2 年前から Pharmacy Information Section（医薬品情報部会）の Executive Committee（ExCo；代議員会）メンバーに選ばれ、責任が重くなりました。FIP は Pharmaceutical にかかる Science と Practice、即ち薬学に携わる科学者と臨床で職能を発揮している薬剤師が一堂に会し、シンポジウムや会議を通じて、共に高め合い協力し、医療に貢献しようという大会です。私の所属する医薬品情報部会を中心にご紹介いたします。

31 日には登録、ポスター貼付が開始されました。今大会のテーマが「Safe Systems - Safe Treatment - Safe Patients」であることから、「Construction of Prescription Supporting System for Patient Safety（患者の安全性確保のための処方支援システム構築）」をテーマとしてポスター発表をしました。この中でちょうどタイミングよく JAPIC が開発し、普及活動を始めた医薬品適正使用支援システム「ファルマ・アシスト」（PharmaAssist）についても盛り込み、締切り直前に急いでアブストラクトを提出し、忙しい仕事の合間にポスター作りをしました。準備も結構楽しい作業でした。

2. 開会式など

1 日の開会式に続き、全体シンポジウムの傍ら、医薬品情報部会はコンピュータによる新技術・データベースのデモンストレーション、ポスター発表を行い、4 日から部会ごとの口頭発表に移りました。その間、早朝、お昼、夕方のシンポジウム以外の時間を使って ExCo 会議（部門代議員会議）、Business Meeting（部門総会）、Section Lunch または Dinner がありましたが、今年は例年に比べ発表内容に力を入れ、過密ながら実質的なスケジュールでした。

開会式では、今大会で任を終えられる Dr Kielgast 会長が「The empires of the future are the empires of the mind」と 50 年前のチャーチルの言葉を引用して、国境などに限定されない新しい帝国と IT 時代の今を捉えて薬剤師の活躍を鼓舞した格調の高い挨拶をされました。

今大会で元 JAPIC 評議員の寺田 弘 先生（前日本薬学会会頭）が FIP 賞を受賞し、壇上で挨拶されました。同時受賞者の Dr Potier は挨拶で寺田先生へ「一緒に壇上へ」と声を掛けておられ友情の深さをみせてくれました。聞くところによると、Dr Potier はノーベル賞候補者の一人だそうで、こんな方とも親しい JAPIC 縁りの寺田先生の慶事が、我がことのように嬉しく思われました。

2 日には午前 7 時半～9 時から ExCo 会議が開かれ、Business Meeting の事前打合せ、次回 2003 年の Sydney 大会（2003.9.4～9.9；Darling Harbor Convention Centre）、次々回 2004 年 New Orleans 大会（2004.9.4～9.9；Hyatt Regency）の計画（座長候補、発表

者候補の提案など) 開発途上国からの参加者支援基準などを話し合いました。途上国参加者の支援制度は、昨年の会議の際、「経費負担が大きく、自費参加は難しい」というアフリカ出身代議員の発言から支援対策を取ることになり、今大会からコンゴ、南アフリカ、インドの3名に支援金制度を適用し、参加と指名口頭発表をお願いしました。FIPは国際会議のため、本ExCo会議ではアメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカ・中近東からの代議員が参加しており、医薬品情報を富める国もそうでない国も共有し合い、世界の医療に役立つという精神のもと活動しています。内容が多く時間切れで、翌朝にも残りの新しい3つのWorking Group案を話し合いました。

4日12~2時のBusiness MeetingはWGメンバー・一般会員を含む総会で、WGの活動報告、次回Sydney大会(2003年9月4~9日)の計画案について検討しました。

来年のSydney大会のBPP(Board of Pharmaceutical Practice; 職能部門理事会)シンポジウム案は、メインテーマを‘Developing a New Contract between Pharmacy and Society’と掲げ、1) A new health system for the 21st century (Crossing the quality chasm) 2) How does pharmacy add value? (Reducing risks, improving outcomes) 3) What does patient centred practice mean for pharmacy、4) Drug prescribers and pharmaceutical cares in integrated healthcare、5) Public accountability of the pharmacy professionの5つが出されています。再来年のNew Orleans大会についてもWHOの活動支援の形で検討しています。

3. 主な発表

いくつか発表内容をご紹介します。先日、WHOのTraditional and Complimentary & Alternative Medicine(TM/CAM; 代替補完薬)の消費者向け適正使用ガイドライン案作成に、外部協力を得て関わったCAMについて、シンポジウムInternational Harmonization of Quality Standards for Herbal Drugsがあり、FDAおよび欧州側の考え方が述べられ、活発な討論が行われました。各国による薬局方等の基準・試験法の違い、どの公定書にもないものの扱いなど難しい問題があります。また、WGメンバーとして直接関わったWHOのATC分類についてもこの普及のための発表をしました。調査では現在約80カ国がATC分類を採用しているとのことですが、EphMRA(欧州医薬品市場協会)のATC分類と混同されているようでした。

4~5日のシンポジウムEnsuring Patient Safety in Drug Useでは、JAPIC評議員の林昌洋先生(虎の門病院薬剤部長)が、日病薬が力を入れて取り組んでいる「ブリアボイド」活動の成果を発表され、「病院薬剤師は患者を不幸な副作用から守れる」と日本の病院薬剤師の役割を力強くアピールし、聴衆の拍手を受けました。

医薬品情報部会のシンポジウムでは、4日Developing and Evaluating Medicine Education Programmes for Children and Adolescents、6日Access and Equity: The Challenge of Getting Medicines to the People who Need Them、継続のCurrent Issues in Drug and Health Care Informationと3つのテーマで、口頭発表が行われました。Current Issuesでは、JAPICも「手のひらサイズ医薬品情報システム」として検討しているPDAsを、患者ケアの視点で活用している内容の発表、消費者への医薬品情報、途上国の医療に

関する理解度試験評価、インドの医薬品情報センターによる地域病院の副作用モニタリング実施状況など報告されました。

モバイル型情報ツールはハンディな分、今後 JAPIC の医療現場向け情報提供手段として有効であると自信を深めました。また、JAPIC の友好機関でもある日本 RAD-AR 協議会は一般消費者、学童などへ向けて「くすりを正しく使う」教育・啓蒙活動を展開しており、この情報収集について依頼を受けておりましたので、4日の発表は特に身を入れて聞きました。帰国後、早速、情報のお土産をお届けしました。インターネットで公開されている小児・青少年向けくすり教育資料には、www.usp.org/information/programs/chidren , www.pfizer-kids.com , www.kidshealth.org があります。関心のある方は是非ご覧ください。

2時間の昼休みやシンポジウム終了後に行われる部会別懇親会は、知己を得ること、情報交換の場としてよい機会でした。

4. 終わりに

最終日、恒例のガラパーティはなく、ジャパンナイト(2004年京都で開催される FIP サイエンス部門の「第2回世界薬学会議」のPRを兼ねたを日薬、日本薬学会、日本薬剤学会の共催のレセプション)に招かれ参加させていただき、FIPの新旧会長をはじめ内外のFIP首脳陣に会うことができました。これを機会にFIP会員になると思われる方はFIPのホームページ www.fip.org のMembershipをご覧ください。

参加のおかげで人的ネットワークを更に広くできたように思います。JAPICの広報活動にも助けになると思いました。

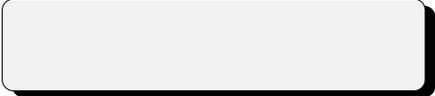
(事務局 佐々木宏子)



ExCoメンバーと(左端: Dr Gier 議長)



ポスター発表風景



「JAPIC データベース説明会」のご案内

テーマ：第4回 学会関連データベース入門編

SOCIE、JAPICDOC 速報版、MMPLAN の3つのデータベースについて、それぞれの内容、組み合わせた活用法、Q-サービスを利用されていない方が学会情報を利用する方法など、ご紹介いたします。

参考：SOCIE（医薬関連学会演題情報 DB）

JAPICDOC（日本医薬文献抄録 DB）速報版

MMPLAN（学会開催予定 DB）

プロジェクターを使って、スクリーンで説明します。

小人数制で、対話型で行いますが、参加者の実技演習は行いません。

対象：**JAPIC 会員**。実際に JAPIC データベースを使っている方はもとより、まだ使ったことのない方を対象に考えております。

毎回 20 名まで（申込順）

日時：第4回 10月17日（木）（学会関連データベース）

いずれも 15：30 ～ 17：30

場所：JAPIC 3F 会議室

申込み：開催日の3日前まで

JAPIC HP（www.japic.or.jp）の説明会参加申込書をご使用ください。

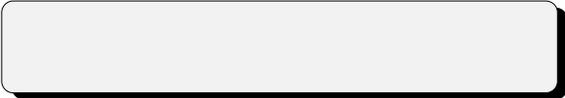
今後の予定：11月21日、12月19日、2003年1月16日、2月20日、3月20日。

内容・日時は変更の場合もあります。

毎回、JAPIC HP で内容・日程をご案内いたします。

参加費：無 料

担 当：JAPIC 技術渉外部・事務局業務担当 Tel ; 03-5466-1812 Fax ; 03-5466-1814



「医療薬日本医薬品集 2003」(第 26 版)ならびに

「日本医薬品集 DB2002 年 10 月版」の発刊のお知らせ

10 月下旬に「医療薬日本医薬品集 2003」(第 26 版)〔書籍〕と「日本医薬品集 DB 2002 年 10 月版」〔CD-ROM〕を同時発刊いたします。収録内容、価格等は次のとおりです。

1) 「医療薬日本医薬品集 2003」(第 26 版)〔書籍〕

対象医薬品と資料

- ・対象医薬品：平成 14 年 8 月 30 日現在、医療の現場で使用されている医薬品のうち、当センターで添付文書などの資料を入手している医療用医薬品 2,022 項目(内新規項目 24 項目)。[平成 14 年 8 月 30 日薬価収載品を含む]
- ・資料：平成 14 年 8 月現在、当センターで入手している添付文書、厚生労働省から発表された「緊急安全性情報」、「再評価結果」、「再審査結果」、「医薬品等安全性情報」、日本公定書協会・日本製薬団体連合会編集発行「医薬品安全対策情報：DSU」等
- ・体裁：B5 判・約 3,000 頁

2) 「日本医薬品集 DB 2002 年 10 月版」〔CD-ROM〕

前述の「医療薬日本医薬品集 2003」本文データを含む 4 冊の書籍データを収録しております。

収録内容

- ・添付文書情報関係：「医療薬日本医薬品集 2003」(第 26 版)
「一般薬日本医薬品集 2002-03」(第 13 版)
+ 2002 年 5 月までの新薬・改訂情報
- ・製品情報関係：「保険薬事典」
- ・識別コード情報関係：「医療用医薬品識別ハンドブック」

3) 価格(本体価格)

書籍		¥23,500
CD-ROM	CD-ROM 単品	¥35,000
	書籍綴込ハガキ利用	¥23,000
	書籍と CD-ROM のセット	¥42,000

TEL.03-5466-1825 FAX.03-5466-1816

薬価基準追補収載品目の添付文書のご提供についてお願い

薬価基準追補収載品目（平成14年7月5日告示、105社410規格）の添付文書の入手状況は、9月9日現在、71社307規格になっております。ご協力ありがとうございました。なお、未入手の添付文書につきましては再度ご依頼申し上げますので、ご提供下さいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

（添付文書部門 TEL.03-5466-1826）



「JAPIC NEWS」からの情報が厚生労働省の通知に引用

「JAPIC NEWS」No.221でお知らせした「JAPIC Daily Mail サービスからの話題 - エフェドリンアルカロイド、アリストロキア酸等を含む健康食品、その他のサプリメントに関する規制措置 - 」の記事が、厚生労働省医薬局から「(前略)財団法人日本医薬情報センター(JAPIC)から、エフェドリンアルカロイド等を含む健康食品に関する海外状況について別添のとおり情報提供があったので、ご参考までに送付いたします。(以下略)」という内容で都道府県等へ通知され、厚生労働省ホームページからもみられます。

（医薬文献部門 JAPIC Daily Mail 担当 TEL.03-5466-1824）





◀ 新着資料案内 - 平成 14 年 8 月受け入れ ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>>でもご覧頂けます。
お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。
電話番号 03-5466-1827 Fax No.03-5466-1818

- 図 書 -

1. 中部病院名簿 2002 年版 第 19 版
2002 783p \ 17,000
2. European pharmacopoeia 4th edition Suppl.4.3
Council of Europe 2002 2887-3229p \ 14,460
4 3 EU
3. ヘルスサイエンス情報略語事典
2002 526p \ 3,500
4. IARC monographs on the evaluation of carcinogenic risks to humans
vol.78 ionizing radiation, part 2:
WHO-IARC Working Group 2001 595p \ 7,480
IARC 1971
5. IARC monographs on the evaluation of carcinogenic risks to humans
vol.79 some thyrotropic agents
WHO-IARC Working Group 2001 763p \ 7,480
6. IARC monographs on the evaluation of carcinogenic risks to humans
vol.80 Non-ionizing radiation, part 1:
WHO-IARC Working Group 2002 429p \ 7,480
7. 医療・医薬品業界の一般知識 2002
2002 431p \ 3,800

8. 医療用医薬品品質情報集（平成 14 年 7 月版）
付録 日本薬局方外医薬品規格第三部
2002 166p
9. 常用新薬集 第 37 版
2002 955p \ 4,820
10. 価格表（医薬品・医療衛生用品）付録：メーカーリスト 2002
2002 645p \ 9,200
11. 長崎大学熱帯医学研究所 共同研究報告書 平成 13 年度(2001)
2002 195p
12. 優秀処方とその解説 改訂 38 版
2002 915p

- 厚生労働省・製薬団体等資料 -

1. 新医薬品等の再審査結果 平成 14 年度（その 1）について
2002 2p
2. 医薬品・医療用具等安全性情報 No.180
2002 13p
3. 厚生科学研究（医薬安全総合研究事業）添付文書等による医療用医薬品
に関する情報の提供の在り方に関する研究 平成 13 年度研究報告書
2002 101p

- CD-ROM -

1. e 添付文書（電子化添付文書）ver.1.1 サンプル版
13
2002

- その他 -

1. 国立病院長崎医療センター医学雑誌 第 5 巻第 1 号（2002 年 3 月）
2002 84p
2. 平成 13 年度事業年報



例年になく残暑が長引いた9月でした。気温の上昇に反して、株価の下落が気になる月でもありました。加えて、小泉首相は急遽北朝鮮を訪問され、初の日朝首脳会談が行われるという歴史的な月でもありました。医薬品分野に関係したところでは、14年度版厚生労働白書が発刊され、その中で医薬品産業について、「日本でも21世紀のリーディング産業として日本経済発展の一翼を担っていくことが期待される」と謳われております。さらに、厚生労働省は医薬品産業の国際競争力強化に向けて「医薬品産業ビジョン」を公表し、来年度政府予算の概算要求の中でも、それらが具体的に織り込まれております。製薬企業におきましても、それらに対応した動きが散見されております。

9月末でJAPICの14年度上半期が終わります。本年度は新体制のもと、第一期中期3ヵ年年計画の第一年目でもあり、目標達成に力点を置いて業務を遂行しております。上半期の決算等につきましては後日詳しくご報告致しますが、会員の皆様のご支援・ご協力を得て、上半期の重点化事業および収支会計の両面で、計画がほぼ達成しております。

本年度は、特にユーザ重視に取り組んでおります。その一環として、企画運営会議の下に外部からの委員で構成された下記二つの委員会を設けて、これからのJAPICの方向性、事業のあり方、会員の拡大などを検討して頂いております。第一回の会合がそれぞれ、9月13日、9月20日に開催され、活発な討議が展開されました。

1) JAPIC 添付文書情報検討委員会

(委員長: 樋口貞夫 JAPIC 理事、藤沢薬品工業(株)・開発本部副本部長)

2) JAPIC データベース利用会員検討委員会

(委員長: 高岡庸児 JAPIC 理事、エーザイ(株)・薬事・医薬情報担当常務執行役員)

業務の効率化の一環として、新請求システム(スマイル)を導入し、本格稼働が開始しました。従来の請求業務は受注した部門で納品し、その情報をもとに他部門で請求書を発行し、さらに入金後は経理部門でその照合を行い、決算処理しておりました。今回のシステム導入により、これまでの3部門での業務が自動的に流れ、重複作業が解消され、大幅に作業効率があがることになりました。ここでも、情報の流れ・共有化の重要性及び新兵器の威力を再認識しました。

8月末から9月始めにかけてフランスのニースで開催されましたFIPに佐々木参事が参加し、JAPICで開発中のファルマ・アシスト(医薬品適正使用支援システム)などの発表、宣伝をしてきました。医薬品情報分野におけるこれからの国際化への対応にも力を入れていきたいと考えております。

(K.M)



- ・平成14年9月1日から9月30日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合は、当センター事務局業務担当（TEL.03 - 5466 - 1812）にお問い合わせ下さい。

情 報 提 供 一 覧	発行日等
<出版物等>	
1. 「医薬関連情報」9月号	9月27日
2. 「Regulations View」No.85	9月27日
3. 「JAPIC CONTENTS」No.1519～1523	毎週月曜日
4. 「国内医薬品添付文書情報」No.198	9月20日
5. 「日本医薬文献抄録集」02シリーズ版（5）	9月末予定
6. 「医薬品副作用文献速報」10月号	9月末予定
7. 「JAPIC NEWS」No.222	9月27日
<速報サービス>	
1. 「各国副作用関連情報誌のコンテンツ速報FAXサービス」	随 時
2. 「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.353～356	毎 週
3. 「JAPIC - Q（医薬文献・学会情報速報サービス）」	毎 週
4. 「JAPIC Daily Mail（外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス）」No.328～346	毎 日

<p style="text-align: center;">データベース一覧</p> <p style="text-align: center;">1～7のデータベースのメンテナンス状況はJIPホームページ (http://Infostream.jip.co.jp/)でもご覧いただけます。</p>	更新日
<JIP e-InfoStreamから提供>	
1. 「JAPICDOC速報版（日本医薬文献抄録速報版）」	9月 6日
2. 「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	9月 6日
3. 「ADVISE（医薬品副作用文献情報）」	9月 5日
4. 「MMPLAN（学会開催予定）」	9月 5日
5. 「SOCIE（医薬関連学会演題情報）」	9月 6日
6. 「NewPINS（新添付文書情報）」（月2回更新）	9月 4日 9月17日
7. 「SHOUNIN（承認品目情報）」	9月末予定
<JST JOISから提供>	
「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	9月中旬

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター事務局業務担当（TEL.03 - 5466 - 1812）を通じて許諾を得てください。

===== 財団法人 日本医薬情報センター
 禁無断転載 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
 JAPIC NEWS 1984.4.27 No.1 発行 長井記念館 3階
 毎月1回(最終金曜日)発行 TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814